

APEX CLUB '19/11

アペックス産業株式会社 第48号

当社は今年12月に創立70周年を迎えます

『APEX CLUB』

発行 2019年11月1日(通算48号)
発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>
発行人 元木 貢 (編集委員)山口力広、高塚章夫
佐々木 健
(事務局)齊藤久美

ご用命・お問い合わせ先
アペックス産業株式会社
電話 03-3455-6474
FAX 03-3455-6558

＜詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください＞
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。

ギャラリー



元WHO 専門家の一盛和世先生の呼びかけで、メーカーなど9団体が協賛、日本PCO、東京都PCOをはじめ、15団体が後援して「ふ〜ん蚊祭-もっと知ろう蚊の世界」が、令和元年6月29日〜30日、日本科学未来館で開催されました。

蚊から派生する多面的な世界を“蚊学”として捉え、専門家のみならず一般の人びとの関心や興味を高めていくことが狙いです。

会場は5つのエリアに分かれ、展示や講演、実習が行われました。折しも同館でマンモス展が開催されていたこともあって、2日間で3千人が訪れました。



一盛先生開会のご挨拶



エリア1 蚊と遊ぶ



エリア3 蚊と闘う



技術委員会メンバー



大賑わい



エリア2 蚊を学ぶ



エリア4 蚊を探る



顕微鏡で蚊を観る



蛹を拾う



エリア5 蚊を考える



感染症・沢辺先生(五輪と蚊)



YOSUによるライブ



会場を賑わした「ヒトスジシマ子」さん

むし籠

新宿御苑蚊成虫防除演習

平成二十六年八月、約七十年ぶりに日本でデング熱が発生しました。デング熱は日本ではヒトスジシマカが媒介する感染症です。デング熱の発生を予防するためには、ヒトスジシマカを防除することが必要不可欠です。

このため、当社が所属する東京都ペストコントロール協会は、当時デング熱が発生した代々木公園をはじめとして、各所で蚊の防除の対応に追われました。

デング熱は現在、日本国内で定着はしていませんが、海外からの旅行者等による持ち込みによって、今後も国内で発生する恐れがあります。

来年には東京オリンピックが開催され、都内に一時的に多くの渡航者が滞在することになるため、デング熱をはじめとした蚊媒介感染症の対策が求められます。

そんな中、令和元年九月、国立感染症研究所を中心として、蚊媒介感染症の発生を想定した蚊成虫の防除訓練が新宿御苑にて行われました。防除訓練は、感染拡大を防ぐための関連部署における連携体制のシミュレーション、駆除現場の実際を関係各所に知ってもらうこと、訓練によって十分な準備が行われていることの周知を目的として実施されました。

当社からは東京都ペストコントロール協会の一員として、社長の他、

社員一名が参加しました。

東京都健康安全研究センターや日本環境衛生センターによる蚊成虫の採集調査後、薬剤の散布作業を我々が先行し、駆除を成功させることができました。

また、報道各社も多く参加しており、訓練後すぐにテレビや新聞で、訓練の状況が報道されました。これによって有事の際には、迅速な対応がなされることを期待されます。

レインボーブリッジ散策

レインボーブリッジは、東京都港区芝浦と台場地区を結ぶ吊り橋で、一九九三年(平成五年)八月に開通しました。

このブリッジに歩道があるのを存じでしょうか。芝浦側入り口は、新橋からゆりかもめで芝浦頭駅下車五分、台場側は台場海浜公園から徒歩十五分にあります。

通行時間
帯は、冬季は十時から午後六時、夏季は九時から午後九時です。素晴らしい眺望をお楽しみください。



二階は高速道路

虫めがね

(公社)日本ペストコントロール協会 実態調査

日本ではペストといえは病気のペスト(黒死病)と思われがちですが、英語では「やっかいなもの」、転じて「ヒトに危害を加える生物全般」を指します。

その業界で組織されたペストコントロール協会では、創立以来五年ごとに実態調査を行っており、このたび第九回実態調査が実施されました。設立時に百六社だった会員数は、八百八十五社となりました。加盟会員の加入年数は、四十年以上が半数を超え、息の長い活動継続で社会に必要な業界となっています。

年間売上高は五千万円未満が五七%、業務社員五人以下が七〇%と、小規模な事業者が大半を占めます。五年前の実態調査では、経営上の問題の順位が、一位・価格競争、二位・新規顧客開発困難、三位・売上減少でしたが、今回の調査では、現場従業員の不足が一位となりました。

人手不足の波が私たちの業界にも押し寄せてきているようです。



おじゃま虫 Q&A



偶然一致したクサカゲロウ

八月のある日、当社が受け持っている現場から一つの検体(虫)が研究室に持ち込まれました。食器棚内のお皿に虫がいたというのです。虫は何かの幼虫(イモムシ?)が干からびた状態でよく分からず、顎が大きくアリジゴクのようなものでした。これまで見たことのない形態をしており、アリジゴクが棚の中にいるわけがないので悩んでいると、社員が一人、帰社してきました。

ランチを探るため彼とテーブルに付くと、何かうごめく虫が彼の腕を這っています。よくよく見てみると、先程の干からびた検体とよく似ています。まさかと思いついてみると、頭部等の形から同じ生き物で、クサカゲロウと判明しました。

クサカゲロウは五月から九月に活動する一センチ程度の昆虫で、彼が偶然この虫を腕に付けていなければ、もしかしたら分からなかったかも知れません。虫がよく活動する時期には、こんなことも起こるのです。

*クサカゲロウの幼虫は、アブラムシやカイガラムシ、ハダニなどを好んで食べます。大食漢で、幼虫時代には十日で約六百匹ものアブラムシを食べ、無農薬栽培の農家は、クサカゲロウの幼虫は益虫として重宝されています。